

〈小学校道德〉

公德心を育む指導の工夫

—総合単元的な道德学習を通して—

沖縄市立中の町小学校 教諭 出 砂 隆 清

I テーマ設定の理由

今日の国際化や情報化、科学技術の進展など、人間の生活に物質的な豊かさや多様な価値観をもたらしている一方、急速な少子高齢化や地域コミュニティにおける人間関係の希薄化などの社会環境の激しい変化は、児童の道德性発達に大きな影響を与えている。特に生命を大切にする心や他人を思いやる心、公德心や規範意識などのモラルの低下が指摘されている。このような現状から、生きる力の基盤となる豊かな人間性を育む道德教育の役割がますます大きくなってきている。

現行の小学校学習指導要領解説道德編では、学校における道德教育は、「豊かな心をはぐくみ、人間としての生き方の自覚を促し、道德性を育成することをねらいとする教育活動であり、社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。」と示している。その中で、公德心や規範意識などに関しては、「よりよい集団や社会を形成していくためには、個としての尊厳とともに社会全体の利益を図ろうとする公共の精神が必要である。」と示し、各学年段階で配慮したい高学年の重点として、「法やきまりの意義を理解すること。」と示している。このことから、公德心を育む学習を重要視し、集団や社会の一員としての自己の生き方を考え深めていくことが求められていると言える。

本学級の5年生の児童は、男女の仲が良く互いに協力し合い支え合う姿がよく見られる。毎年継続して学校全体で取り組んでいる学習規律や生活規律に関する週1回の自己評価の結果からも、家庭生活や学校生活の経験を積み重ね、発達段階に応じた善い行動を考える心情や善悪の判断をすることができる子が多い。また、東京書籍版 i-check 調査（6月実施）においても、全項目において平均値を上回っている良好な学級状態であると言える。しかし、時折、正しい行動についての考えや判断はできているものの、きまりを守ることや公共のマナーから逸脱した行動により他人に迷惑をかける姿を見かけることがある。それは、「少しぐらいなら」や「友達も一緒だから」といった理由であった。

児童の実態からこれまでの授業実践を振り返ると、学校教育全般を通して行う道德教育と、それを補充、深化、統合する道德の時間の指導が十分ではなかったため、道德的価値を深めることができず、道德的実践力や自己の生き方の考えを育むことができなかったのであろう。それによって、道德的実践へと意識が結びつかなかったと考える。

その反省を踏まえ、学級の課題である公德心を大切に捉え、よりよい自己の生き方を考える児童を育むには、道德的価値の理解を深める充実した道德教育に取り組まなければならない。それにより、道德的心情や判断力をより豊かなものにし、実践意欲や態度を育み、自律的な道德的実践を導くことになる。また、公德心は、社会（集団）生活をする上で公德を重んじて守ろうとする精神であるからこそ、集団とのかかわりの中で道德的価値を育むことが有効である。そのためには、他者とのかかわりや社会性等の多様な学びの場が必要であり、学校教育全体で取り組むことが効果的であると考えた。

そこで、道德の時間と各教科等で行われる道德学習をより一層計画的に関連付けながら道德性を育んでいく総合単元的な道德学習によって、集団とのかかわりの中で公德心を大切に捉え、よりよい自己の生き方を考える児童が育つであろうと考え、本研究の主題を「公德心を育む指導の工夫」、副題を「総合単元的な道德学習を通して」と設定した。

II 目指す児童像

集団とのかかわりの中で公德心を大切に捉え、よりよい自己の生き方を考える児童。

Ⅲ 研究目標

公德心を大切に捉えよりよい自己の生き方を考える児童を目指して、総合単元的な道德学習が有効であるか実践的に明らかにする。

Ⅳ 研究仮説

1 基本仮説

集団とのかかわりの中で、公德心を育む総合単元的な道德学習を計画・実践することにより、目指す児童像に迫ることができるであろう。

2 具体仮説

(1) 道德の時間において、問題解決型の道德学習を行うことにより、道德的实践力を育むことができるであろう。

(2) 各教科等の学習において、道德学習との関連を図った活動を行うことにより、道德的实践への意欲を高めることができるであろう。

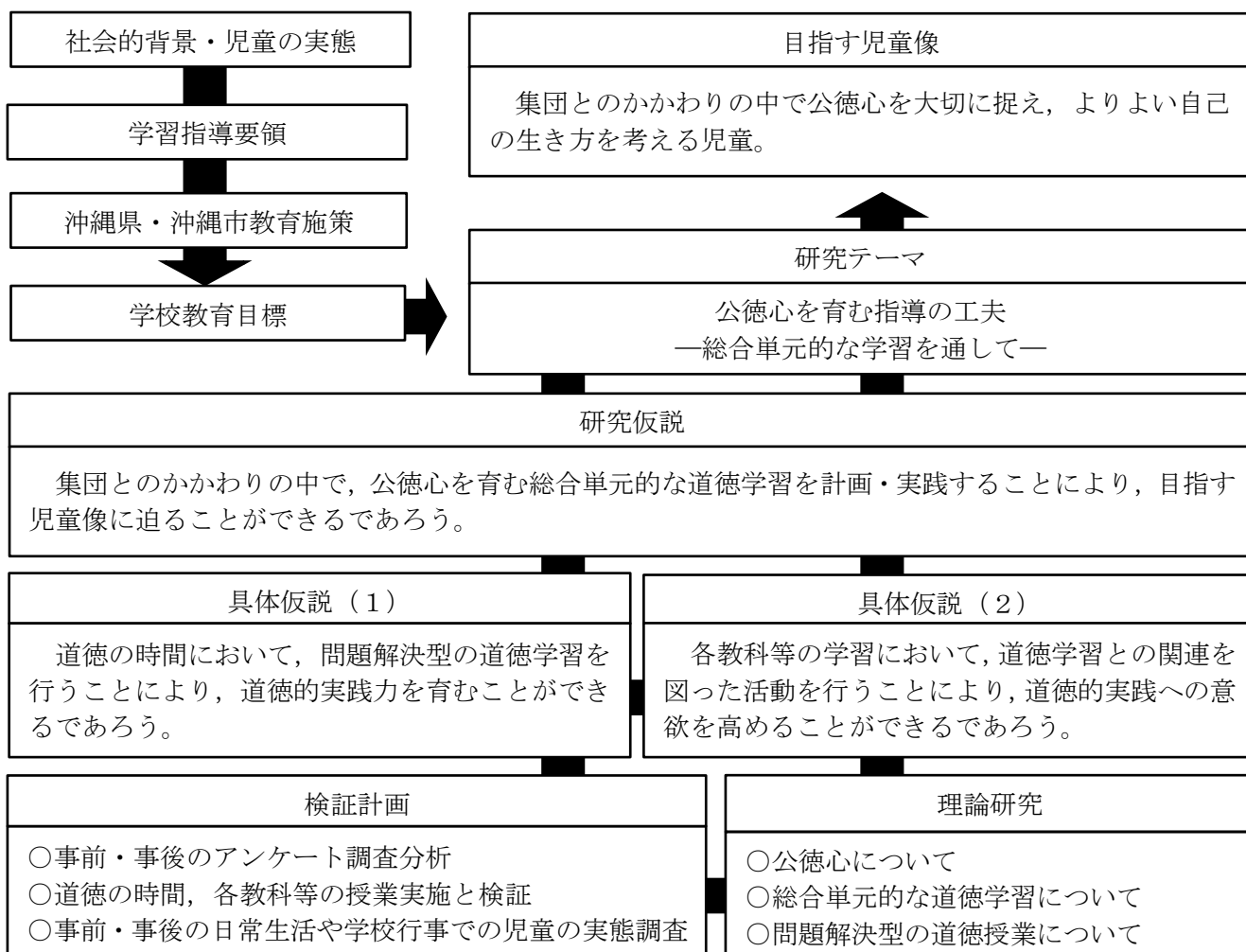
3 検証計画

(1) 事前・事後のアンケート調査分析

(2) 道德の時間、各教科等の授業実施と検証

(3) 事前・事後の日常生活や学校行事での児童の実態調査

Ⅴ 研究構想図



VI 理論研究

1 公德心について

(1) 公德心の捉え方

「公德」とは、社会生活の中で守るべき道徳。「公德心」とは、公德を重んずる精神。と広辞苑で示されている。つまり、「公德」とは公民としての道徳であり、社会（集団）生活に望まれる行動様式や基準を表すものである。「公德心」とは社会（集団）生活をする上で公德を重んじて守ろうとする精神である。

よって、公德心を、「社会の一員として、他人に迷惑をかけず公共のマナーや利益を守り、社会生活を円滑に営むための大切な心構え。」であると捉えることができる。

(2) 公德心の内容

公德心にかかわる内容は、社会生活において多岐多様にわたる。そこで、小学校の学校教育で公德心を育む道徳教育を展開していくためには、教育課程の基準である学習指導要領や児童の発達の段階や特性等に基づき、内容を焦点化して学習を進めていく。

① 小学校学習指導要領から

児童が生活する上で必要とされる社会規範を守るとともに、公德心をもち、それらの精神を日々の生活の中に生かして児童を育てようとする内容項目が、発達段階に応じて小学校学習指導要領解説道徳編に示されている。（表1）

児童が成長することは、同時に社会や集団の様々な規範を身に付けていくことでもある。まず、約束やきまりを守ることができるようにすることが必要である。その過程で公德心を養い、さらに、社会の法やきまりのもつ意義について考えるとともにそれを遵守することや、自他の権利を尊重するとともに義務を大切にす精神をしっかりと身に付けることが大切であるとされている。

表1 小学校学習指導要領解説道徳編 4-(1) 公德心

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	
低 学 年	【約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。】 この段階においては、まだ自己中心性が強く、自分勝手な行動をとることが多い。このことを考慮して、身近な社会生活における出来事なども取り上げながら、約束やきまりをしっかりと守る態度を育てることが大切である。それとともに、公共物や公共の場所に意識を向けて、みんなで使う物など、具体的な物や場所を大切にする心から公德心がはぐくまれるよう指導することが大切である。
	【約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。】 中学年この段階においては、気の合う仲間間できまりをつくり、自分たちで決めたことを大切にす傾向がある。そのような発達的特質を生かし、一般的な約束や社会のきまりについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切である。さらに、公共物や公共の場所とのかかわりにおいても、みんなで使う物を大切にすることにとどまらず、社会生活の中で守るべき道徳としての公德を大切にす態度にまで広げていく必要がある。
高 学 年	【公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし進んで義務を果たす。】 この段階においては、社会生活上のきまりや基本的なモラルなどの倫理観を育成する観点から、児童が法やきまりの意義を理解し、遵法の精神をもつところまで高めていく必要がある。また、それとともに、他人の権利を尊重し自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行せず、権利ばかりを主張しては社会は維持できないことについても考えを深め、義務を大切にし、自分に課された義務をしっかりと果たす態度を育成することも重要である。

② 道徳性発達理論から

「道徳的判断とその発達の段階は、個人や文化の違いを越えて絶対的で普遍的なもの。」と提唱したローレンス・コールバーグが示した6つの道徳性発達段階に、井口祥子(2010)が解説を加えた資料（表2）を参考にして児童の発達支援や授業評価に役立てていく。

表2 道徳性発達段階

(一部抜粋)

段階	発達基準年齢	判断基準と解説
段階0 自己中心 的判断	就園前～ 4歳前後	自分の欲求が正しいという信念が道徳的判断基準となる。この時期は自分なりの正義観に基づいて主張している。自分がやって欲しいことを相手がやらないから相手が悪いとは言えないのだということを場面ごとに教えていくことが求められる。
段階1 他律的 道徳性	幼稚園～ 5歳前後	権威を持った大人が決めることが正しいことであり、それに従うことが正しいことと判断する。まだ小さいからと甘やかすのではなく、悪いことは悪いとする毅然とした態度が功をなす時期。挨拶や食事のマナー、睡眠・起床を含めた基本的な生活習慣などは、就学前までに習得させておくのが望ましい。
段階2 個人 主義的 道徳性	小学校 低学年	自分が損をしていないかを考えるようになる。自分の行動の損得が道徳判断になる時期。大切な人が喜んでくれることに意味があるということを経験の中で体験させ教えていくことが求められる。クラスの友達に「ありがとう」「ごめんなさい」という配慮の言葉をきちんと使えることや、上手く仲間に入れない子がいたら「一緒にやろう」等と自分から誘ってみるかかわりの言葉が使えるように配慮したい。
段階3 良い子へ の志向	小学校 中高学年	親、クラスメート、担任といった身近な他人から良い子と評価されることに価値が置かれる段階。他人の期待に沿い、他者から評価されることで、自己評価も高まり、いい気持ちになれる。このことが、援助行動への動機付けへと繋がっていく。子供の成長に合わせて、他者のために役立つ体験が求められる。
段階4 社会シス テムに対 する責任	十代後期	社会制度や社会的組織の維持のために自分が果たさなくてはならない義務に対しての自覚が高まる。法を遵守し地域社会や国のために貢献するといったことが判断の基準になる。自分の中で大切と考えていることと社会の一員としての責任意識を調和させた道徳観を獲得できるように自立を支援したい。
段階5 規律的な 良心	成人早期	法を人間尊重という視点から客観的に見ることができるようになる。人間尊重が道徳判断の基準となる。自分の属している組織が間違っている場合でも道徳判断を客観的に行える判断力が獲得される。正当な理由があれば規則は変えていくべきものと考えられるようになる。
段階6 普遍的な倫理原理		法律が倫理的原理（正義、公平）に反している場合には倫理的原理に従うべきと考える。正義、平等、尊厳などの視点から、法と道徳の区別がつけられるようになる。

表2から、本学級の5年生の児童は、「良い子への志向」段階にあたる。身近な人々の期待に応じた行動を通して道徳性を獲得する時期である。また、他者の目を通して自分を強く意識するようになり、認められることを通して道徳を学んでいると考えられる。

③ 本研究で捉える公德心の内容

本学級の課題や学習指導要領、道徳性発達理論により、本研究で捉える公德心の内容を、社会の一員としてみんなが快適で安心できる社会づくりに自分も参加しているという自覚をもたせながら、「きまりの意義を考え遵守する」「他人に迷惑をかけない」「公共物を大事にする」の3つに焦点化し研究を進めていく。

(3) 公德心を育む指導

滝元(2012)は、社会性や公德心等を育むために大切なことを次のように示している。

子供自身が他者から大切にされたり、気遣われたりしていることに気づき、それを心地よいと感じ、ありがたいと感じること。自分を取り巻く集団や社会に対する愛着が生まれ、自分もその中で役に立ちたい、認められたいとの思いが湧いてくること。実際に必要とされることの喜びや、役に立てたときの充実感。そうした気づきや自覚をもたらすような日々の体験や環境を整えることが何よりも大切である。

子供の心の中に、相手に対する関心や相手のことを大切にしたい、気遣いたいという欲求を目覚めさせることが大切であり、集団とのかかわりの中で公德心を育むのが効果的であると考えられる。

2 総合単元的な道德学習について

(1) 総合単元的な道德学習とは

学校の教育活動全体を通してそれぞれの特質に応じてなされる道德教育と、それらを補充・深化・統合する道德の時間がうまく機能しあうことによって道德教育の効果が期待される。したがって、道德教育の目標である道德性の育成を効果的に達成するには、各教科等と道德教育との関連を図りながら、計画的・発展的に学習を行う必要がある。

これらの関連を明確にして道德教育の充実を図ろうとする願いから、押谷由夫(1995)により「総合単元的な道德学習」が提唱されている。押谷氏によると、総合単元的な道德学習を次のように定義している。(図1)



図1 総合単元的な道德学習

子供の道德的価値に関する意識の流れ(連続)を大切にして、各教科、特別活動、および総合的な学習の時間など全教育活動における道德教育とそれらを補充・深化・統合する道德の時間の学習を有機的に関連させた一つのまとまりとして計画して指導する道德教育の一方途である。

週1時間の道德の時間で、道德的心情、道德的判断力、道德の実践意欲と態度を図る指導が計画的、発展的に行われるが、より道德的価値の自覚を深めることや自己の生き方について考えを深める指導を充実させるために、各教科等の指導において、道德的価値についての知識・理解を主とした指導や、道德の実践についての方法・技術を主とした指導をそれぞれの特質に応じて行うこととしている。

(2) 総合単元的な道德学習の基本的な学習指導過程

総合単元的な道德学習を考える場合には、道德の時間を中核とし、その事前・事後に位置付けられる他の教育活動を通して、子供の課題意識を明確にしたり、課題を追究したりすることで、子供自身の主体的な活動として道德学習が行われるようにしていくことが大切である。竹田敏彦(2000)は、次のような取り組みがその指導過程の基本であると示している。(図2)

<事前指導>

道德の時間のねらいに含まれる道德的価値について、各教科や特別活動、総合的な学習の時間等での体験的な活動などによって、課題意識を明確にするような学習活動を行う。

<道德の時間>

道德的価値の自覚を深めることによって自らの課題を改めて確認し、次の道德学習への意欲がかきたてられるようにする。

<事後指導>

自らの課題を追究できるように各教科や特別活動、総合的な学習の時間等で、発展的な学習ができる場を確保し、子供の道德学習を支援していく。

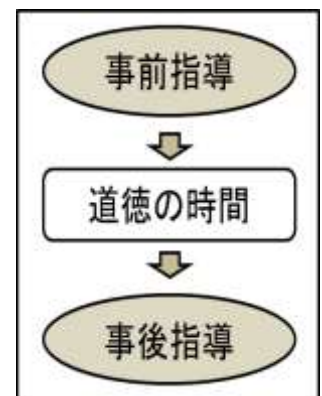


図2 総合単元的な道德学習の指導過程の基本型

(3) 総合単元的な道德学習のよさ

① 各教科等の道德教育の充実

ア 児童が各教科等の学習を通して道德の内容に深く触れることができる。

イ 教師が各単元等の目標や内容を道德教育の立場から分析してとらえることができる。

② 道德の時間の学習の深化

ア 児童が課題意識を連続させ、主体的な問いをもつことができる。

イ 資料の状況を的確に把握することができる。

ウ 資料中の登場人物の気持ちや考えを確かな根拠をもとに追求できる。

③ 知行合一の道德教育の実践

ア 事前体験活動によって道德の時間を児童の実態を伴ったものとするができる。

イ 道德の時間によって事後体験活動を道德的実践力に生かした道德的実践とすることができる。

(4) 特別活動とのかかわり

① 特別活動の目標と特質

小学校学習指導要領によれば、特別活動の目標は次のように示されている。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

目標から特別活動の特質を次のようにまとめることができる。(国立教育政策研究所)

ア 集団活動であること

よりよい生活や人間関係を築くために、目標やその達成の方法や手段などを決め、みんなで役割を分担してその実現を目指す協働的な集団活動である。

イ 自主的な活動であること

自ら楽しく豊かな学級や学校の生活をつくりたいという課題意識をもって、指示待ちではなく、自分たちで問題を見つけたり話し合ったりして解決するなど、「子供たちによる、子供たちのための活動」である。

ウ 実践的な活動であること

楽しく豊かな学級や学校の生活づくりのための諸問題を話し合ったり、話し合いで決めたことに友達と協力して取り組み、反省を次に生かしたりするなど具体的に実践する活動である。

② 特別活動の教育的意義

ア 自分たちで生活の諸問題を解決しようとするたくましい子供が育つ。

イ 子供相互、子供と教師との人間的な触れ合いが深まる。

ウ 友達と協力して、チームで活動しようとする子供が育ちいじめ問題等の未然防止に役立つ。

エ 切磋琢磨できるよりよい人間関係が育ち、効果的に学力を向上するための土壌づくりになる。

オ 共生社会の担い手としての豊かな人間性や社会性を身に付けることができる。

③ 道徳と特別活動の関連について

道徳の時間の目標は、道徳的心情、道徳的判断、道徳の実践意欲と態度の3つからなる「道徳的实践力を育成する」ことであるため、道徳の時間では、道徳的行為や道徳的習慣である「道徳的实践」までは結び付けなくてもよいということである。

それは、道徳の時間で道徳的価値の自覚が深まれば、道徳的实践力が養われ、いつか道徳的实践にも至るであろうということに基づいている。しかし、道徳の時間で道徳的価値の自覚を深めたとしてもなかなか道徳的实践につながらないことが多い。

そこで、道徳と特別活動の目標に示してある「自己の生き方についての考えを深める」という共通点から、特別活動と連携した総合単元的な道徳学習が効果的だと考えた。

つまり、道徳の時間で道徳的価値の自覚を深め道徳的实践力を育成したら、その後の特別活動で道徳的価値と関連した道徳的实践を行う。逆に、特別活動で実践した内容を道徳の時間で振り返り、道徳的価値の自覚を深める。このように、道徳的实践力と道徳的实践の相互連携により、児童の道徳性が一層高まると考えられる。(図3)

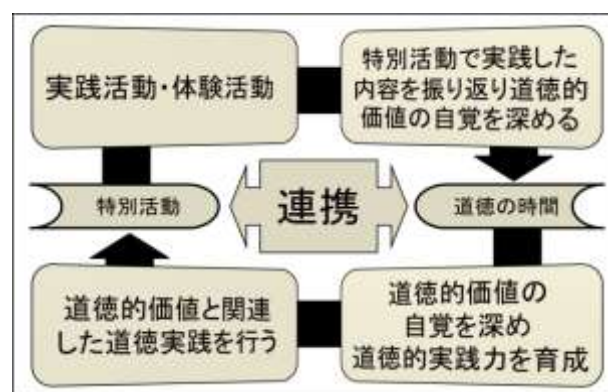


図3 道徳の時間と特別活動との関連図

④ 公德心、社会性の発達について

望ましい集団活動を通して、みんなで目的をもって取り組むことの楽しさや素晴らしさを実感する。そして、どのようにすればみんなと力を合わせてより充実した活動を行うことができるか学んでいく。そのことが集団の一員としての自覚を深めていき、公德心や社会性の発達を促すことにつながる。(協力する、信頼し合う、約束を守る、公正、公平な態度等が必要と気付く)

3 問題解決型の道德学習について

(1) 問題解決型の道德学習とは

柳沼良太(2012)は、問題解決型の道德学習を次のように定義している。

問題解決型の道德学習とは、子供が道德的な問題解決を主体的に協働探究する学習を通して「生きる力」を育む道德学習のことである。

具体的には、道德の時間で道德的問題（自己の在り方，対人関係，社会適応等）を分析し，過去の経験等を踏まえて解決策を自ら構想しみんなで議論する。そして，実際に解決策を実行して，その結果を検証し省察する。（図4）

こうした問題解決の経験を積み重ねることで，児童は行為を導く道德的観念（ものの善悪をわきまえて正しく振舞おうとする気持ち）と実際の活動を結び付け，経験を再構成しながら道德的な成長を遂げていくと考えられている。

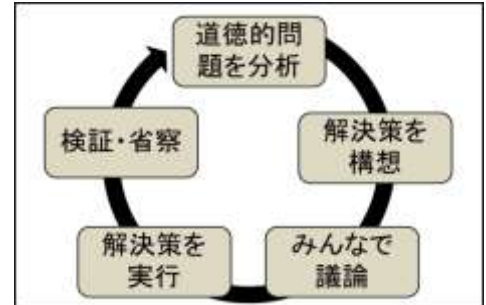


図4 問題解決型の道德学習

(2) 総合単元的な道德学習とのかかわり

事前指導で児童の日常的な生活経験にかかわる道德的

問題を把握した上で，道德の時間の導入部では取り扱う資料の道德的観念を検討し，展開部では学習内容を児童の生活経験に基づいて議論し，事後指導では授業で検討した道德的観念を日常生活に活用して生活習慣に結び付けていく。

そのためには，道德の時間と各教科等や日常生活等と関連付けて行う総合単元的な道德学習として取り組むことが効果的である。

(3) 問題解決型の道德学習の特徴

「この時，主人公はどうしたらよいだろう」「自分ならどうするだろう」と問題の解決を促す。こうした発問は学習指導要領でも推奨するように「迷いや葛藤を大切にした展開」「批判的な見方を含めた展開」を行いやすくする。ここでは，道德的な問題状況における登場人物の心情を理解した上で，それではどうすれば具体的に解決できるかを主体的に考え，自律的に価値を判断することになる。ここまでだと，モラル・ジレンマ授業等と共通している。

その後，児童が道德的問題に取り組む中で道德的価値の理解を深めるように援助し，その解決策を日常の行為・習慣や事前・事後の教育活動とも有機的に関連付け，計画的・発展的に道德的価値を学習していく。こうした道德学習により，民主的な社会を維持し発展させるための価値観である公德心や規範意識等の道德的実践力を育むことができると考えられている。

(4) 問題解決型の道德学習の基本的な学習指導過程（図5）

① 事前指導（調査）

ア 児童の実態や価値観調査 イ 事前にできる体験活動

② 導入（日常生活から道德的問題を提起する。）

ア 道德的価値について考える イ 個人的な経験や事例から価値を考える ウ 価値の本当の意味や意義を考える

③ 展開前段（資料の道德的問題を解決する）

ア 道德的問題の状況を分析し解決課題を見つける イ 解決策を自由に構想する ウ 解決策を吟味する

④ 展開後段（問題解決の知恵やスキルを応用する）

ア 学級全体で話し合う イ 役割演技する ウ 身近な道德的問題でシミュレーションする

⑤ 終末（道德問題の結論をまとめる）

ア 話し合った内容をまとめ感想を述べ合う イ 導入において提示した根本的な問いかけに結論を出す

⑥ 事後指導（道德的実践）

ア 道德的価値実践 イ 自己評価 ウ 道德的習慣を形成



図5 問題解決型の道德学習の学習指導過程

Ⅶ 研究実践（公開検証授業）

道徳学習指導案

平成 26 年 12 月 1 日（月）2 校時
沖縄市立中の町小学校 5 年 1 組
男子 22 名 女子 13 名 計 35 名
授業者 出 砂 隆 清

- 1 主題名 「公共でのマナー」 4－(1) 規則尊重・公德心
2 資料名 「シンガポールの思い出」（出典 5 年生の道徳 文溪堂）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は学習指導要領高学年 4－(1)「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。」ことをねらいとし、社会生活上のきまりや基本的なモラルなどを育成する観点から、児童が法やきまりの意義を理解し遵法の精神をもつところまで高めていく内容項目である。

ねらいとする価値である公德心とは、社会の一員として、他人に迷惑をかけず公共のマナーや利益を守り、社会生活を円滑に営むための大切な心構えであると考ええる。きまりとは、互いに気持ちよく生活するために定められた法律や約束ごとのことであり、マナーは一人一人の良心に従って行動する他人への思いやりや気遣いであると考ええる。

だれもが安心して快適に生活できる社会を築いていくために、公德心をもってきまりを守ることが大切にしマナーの意識を高め、それぞれの特性を組み合わせることが重要であることを学ばせるのは、道徳性発達段階からも高学年の児童に意義深いと考ええる。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、明るく活発で男女の仲が良い。係活動をきちんと行い、決められたことをしっかり守ろうという意識をもっている子が多い。しかし、「少しぐらいなら」という気持ちから、廊下を走るなどきまりを守らないことがある。規範意識について正しい判断はできているものの行動が伴わず、他者へ迷惑をかけることが見られる。

また、実態調査からも、友達との約束や公共のものを大切にしている児童は 90%を超えているが、学校生活のきまりや社会生活のきまりといった規範意識やマナーに心がけるといった行動に課題がある。（図 6）

児童の発達段階から、他律から自律へと成長する時期だからこそ、集団や社会の一員として望ましい行動をとることの良さを心で感じさせ、よりよい自己の生き方を考えさせていきたい。

(3) 資料について

本資料は、シンガポールから戻った主人公が日本の汚い様子に残念な気持ちになって友人と話す場面から始まる。その後、シンガポールは細かいきまりと罰金によってきれいな町を守っていることを良いことだと思う主人公に対して、それでは窮屈ではないかという日本の友人の言葉に戸惑う場面が描かれている。

展開前段においては、きまりを守る大切さを認識させながら、きまりに頼るだけでなく、一人一人のマナーの意識を高めることによって、みんなが気持ちよく過ごせるという公德心について深く考えさせていきたい。また、展開後段においては、児童の身近な公德心にかかわる映像を用いて、自分の生活を見つめさせることによって、自分自身の問題として捉え、これからの自己の生き方を考えさせていきたい。

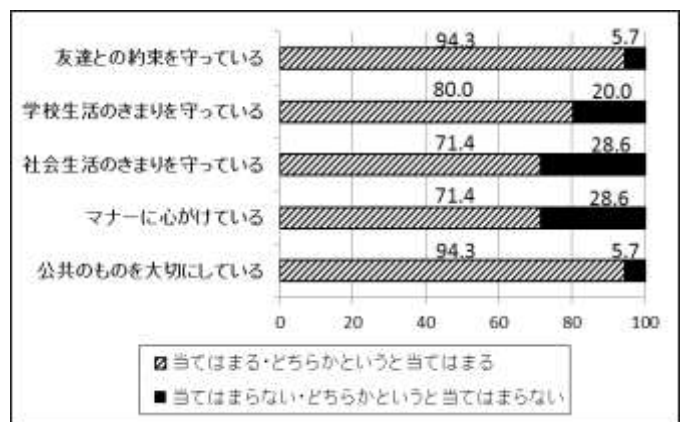


図 6 児童の実態調査結果（10 月）

4 本研究とのかかわり

(1) 問題解決型の道徳授業

問題解決型の道徳授業は、身近な道徳的問題を題材とし、主体的に解決に取り組むことで、論理的に考察する力、当事者の心情を把握する力、主体的に判断する力、解決策を創造的に構想する力、実際に行動しようとする力を総合的に養うことが期待できる学習である。

また、仲間との話し合いによって多様な価値を見いだし、様々な理由や結果も考えるため、理想から現実へと結び付けた解決策を構想することができる。

こうした授業で、児童は自ら納得できる価値や解決策を考え、それらを現実生活にも適用しやすくなるため、生きる力を育む学習になると考える。

本研究で捉える問題解決型の道徳授業を柳沼良太氏が提唱している学習指導過程を参考に作成し進めていく。(表3)

表3 問題解決型の学習指導過程

事前 指導	【児童の実態や価値観を調査する】	
	児童の行動観察やアンケート調査をふまえて、事前に児童がどのような価値観や行動規範をもっているか把握する。 また、総合単元的な道徳学習のプログラムに沿って、事前学習から受け継いだ児童の道徳的価値の思考の流れを深める授業展開を構想する。	
道徳の 時間	導入	【日常生活から道徳的問題を提起する】 ねらいとする道徳的価値を提示して、児童が自分なりに価値を定義づけ、授業を通してその価値を首尾一貫して探究できるようにする。「きまりとは何か」など。また、日常生活で体験や見聞した事例から導き出された道徳的価値の一般的な意味だけではなく、その本当の意味や意義をたずねることにより、深く考えるきっかけを与える。(※ここでは答えを求めない)「きまりはなぜ必要だろう」など。
		【資料の道徳的な問題を解決する】 読み物資料の全文を提示し、道徳的問題を抽出し分析する。「何が問題なのか。なぜ問題なのか」「登場人物の考え方は適切か」「登場人物の考え方が感情や行動にどんな影響を与えているか」など。次に、自分なりに解決策をいろいろ考えてみる。「主人公はどうしたらよいだろう」「自分だったらどうするだろう」など。そして、複数の解決策のなかから吟味する。ここでは、複数の解決策の長所と短所を比較検討したうえで、解決策を絞り込んでいく。そのポイントとして、①その解決策はそれによって影響を受ける人を尊重しているか。②その解決策はあなたに適用されてもよいか。③その解決策をあなたはだれにでも適用するか。などである。解決策によってもたらされる結果を個人→グループ→全体で考え話し合うことによって現実的な解決策に練り直していく。その際、問題の当事者がともに道徳的に幸福になる Win-Win 型の解決策を探究し、心から納得でき満足できる自分なりの解決策を考えていく。
	展開 後段	【問題解決の知恵やスキルを応用する】 展開前段で提示した読み物資料と同じテーマを身近な道徳的問題に置き換えて、道徳問題を設定する。児童は既習の問題解決のための知恵やスキルや判断基準を自分の身近な問題解決にも応用し自分の生活を見つめる場とする。
		【道徳的な問題の結論をまとめる】 道徳のテーマに関して、自分は最初どのような考えをしており、みんなと話し合うなかで考えがどのように変容・発展したか、その学習過程でどのように感じたのかなどの感想を分かち合う。そこで、道徳的価値の自覚を深めたのか確認し結論をまとめる。
	終末	
事後 指導	【道徳的実践を評価する】	
	総合単元的な道徳学習のプログラムに沿って教科等との関連を図り、児童が学習した道徳的価値についての自己評価・反省を行う。どのような理由でできたか、どのような理由でできなかったかを振り返り、自己の成長を確認し道徳的行為を習慣化できるようにつなげていく。	

(2) 公德心を育む学習プログラム 総合単元主題「公德心をもってみんな気持ちよく！」

時期	日常活動 における 道徳	各教科等における道徳	道徳の時間	児童の意識の流れ
11月	朝のボランティア清掃活動	学級活動(2)-エ 「係はなせあるの？」 関連 4-(3)役割・責任		集団や社会とのかかわり中で、現在の自己の在り方に気付く。
		体育 「タグラグビー」 関連 2-(3)友情	2-(3) 友情 「男女の協力」 互いに信頼し学び合 って友情を深め、男女 仲よく協力し助け合う	仲間のありがたさを 実感し、他人の身にな って考える思いやりの 心の大切さを感じる。
		音楽 「曲想をあじわおう」 関連 2-(3)友情		
	朝の会			集団の中で役割を果 たす喜びや充足感、全 体の向上に役立ってい るという満足感を味わ い、責任をもって行動 しようという意欲が高 まる。
	授業	学級活動(2)-ウ 「決断のときです！」 関連 2-(4)謙虚・寛容	4-(3) 役割・責任 「自分の役割に向かって」 身近な集団に進んで 参加し、自分の役割を 自覚し、協力して主体 的に責任を果たす。	
		文化的行事 「音楽発表会」 関連 4-(3)役割・責任		
	休み時間			集団や社会の中では 自分のわがままの行動 はみんなに迷惑をかけ 秩序が保たれないこと を知り、自己を統制す る自律ある行動が大切 であることを実感する。
	給食時間	総合的な学習の時間 「渡嘉敷島宿泊学習」 関連 4-(1)公德心 関連 1-(3)自由・自律	1-(3) 自由・自律 「本当の自由とは」 自由を大切にし、自 律的で責任のある行動 をする。	
	清掃時間	学級活動(1)-ア 「きまりのある生活」 関連 4-(1)公德心 関連 1-(3)自由・自律	本時 4-(1) 公德心 「公共でのマナー」 公德心をもって法や きまりを守り、自他の 権利をたいせつにし、 進んで義務を果たす。	他人に迷惑をかけない ことや公共物を大事に することは、社会生 活を円滑に営むために 大切な心構えと知り、 きまりを守り、マナー を大切に考えた適切な 行動をしようとする意 欲が高まる。
	帰りの会	遠足集団宿泊的行事 「渡嘉敷島宿泊学習」 関連 4-(1)公德心		
12月	課外活動等	学級活動(1)-ウ 「宿泊学習の振り返り」 関連 4-(1)公德心		日常生活の中で、公德心のある行動を心 がけようとする意識が高まる。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

互いに気持ちよく生活するために、公德心を大切にしていこうとする意欲を高める。

(2) 本時の工夫

場面	工夫点（手だて・方法）	期待する児童の姿や効果
導入	・前時の学習を想起させ、本時の学習の見通しをもたせる。	・学習内容を理解することで、首尾一貫して意欲的に学習に参加する。
展開前段	・解決策の長所と短所を考える。 ・自己→集団の流れで解決策を吟味する。	・多様な考えに触れ、きまりやマナー（公德心）の大切さに気付く。
展開後段	・児童の身近な公德心にかかわる映像を用いて、自分の生活を見つめる。	・自分自身の問題として捉え、これからの自己の生き方を考える。
終末	・自己評価、他者評価を行う。	・道徳的価値の理解を深め、内面化を促す。

(3) 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 (5分)	【日常生活から道徳的問題を提起する】 1. きまりについて考える。 ○きまりって、なぜ必要なのでしょうか。	・みんなのためにある。 ・悪い事ができないようにするためにある。	・学習内容を首尾一貫して考えるきっかけを与える。
展開前段 (25分)	【資料の道徳的な問題を解決する】 2. 資料を読んで話し合う。 ○主人公「わたし」は、日本の町を見てどんな気持ちでしたか。 ○主人公「わたし」は、町をきれいにするにはどうしたらいいと考えていますか。 ○なぜ、丹野さんは「本当にそれでいいのかなあ」と思ったのでしょうか。 3. 解決策を考える。 ◎あなたなら、町をきれいにするには、どうしますか。 ○自己解決 ↓ ○グループで解決策を吟味する ↓ ○全体で解決策を吟味する	・日本の町は汚れている。 ・シンガポールの町は厳しいきまりがあるからきれい。 ・町がきれいになるのなら、厳しいきまりが必要だ。 ・日本もシンガポールを見習ったほうがいい。 ・きまりが厳しいと窮屈だ。 ・町をきれいにするために、厳しいきまりが必要なのか悩んでいる。 ・きまりがあるとみんなが守るから町が汚れない。 ・好き勝手なことをする人がいるから、きまりが必要。 ・きまりがなくても、人に迷惑をかけない行動をする。 ・一人一人が、マナーのある行動をすればいい。	・町のよごれが気になる「わたし」に共感させる。 ・シンガポールのきまりの在り方が良いと思う「わたし」の気持ちを考えさせる。 ・きまりを大切にしながらも、何でもかんでもきまりに頼ることへの疑問の気持ちを考えさせる。 ・それぞれの長所と短所を比較し自分の意見を明確にする。 ・自力解決が困難な児童は、グループで相談させる。 ・きまりの大切さをおさえ、周りの人のことを考えたマナーに気付かせる。

展開後段 (10分)	【問題解決の知恵を応用する】 4. 自分の生活を見つめる。 ○放課後の学校の様子を見よう。	・次の人が使用することを考えて、スリッパや清掃用具を揃えている。 ・マナーのある行動だ。 ・気持ちがいい。	・トイレのスリッパ並べ等の映像を表示する。 ・周りの人のことを考えた行動の良さを感じさせる。
終末 (5分)	【道徳的な問題の結論をまとめる】 5. 学習のまとめをする。 ・授業の感想を書き評価を行う。	・みんなが気持ちよく生活していくために、周りの人に迷惑をかけないような行動をする大切さが分かった。	・授業の感想，自己評価，他者評価を行い，公德心への意識を高める。

(4) 評価

きまりを大切にし、周りのことを考えた行動をしようとする意欲を高めたか。

(5) 板書計画

○きまりを守ることとは大切。
○マナーのある行動を心がける。
← ◎みんなが気持ちよく生活できる。

- ・きまりがあると、みんなが守る。
- ・好き勝手なことをする人がいるからきまりが必要。

- ・きまりにしなければ、人に迷惑をかける行動をする。
- ・一人一人が、マナーのある行動をする。

○あなたなら、町をきれいにするにはどうしますか。

イラスト 丹野さん

- ・きまりがありすぎると、きゅうくつだ。
- ・町をきれいにするためには、きまりが必要なかを悩んでいる。

イラスト わたし

- ・日本の町はよごれている。
- ・シンガポールの町は、きまりがあるからきれい。
- ・町をきれいにするには、きびしいきまりが必要だと思っている。

シンガポールの思い出

- きまりとは？
- ・みんなのためにある。
- ・悪い事をさせないためにある。

(6) 授業で使用する映像資料



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

6 公開検証授業の様子

1. 導入【日常生活から道徳的問題を提起する】
前時の学習を想起させる。



児童：学校のきまり。家のきまり。
交通ルール。バスケのルール。

教師…きまりってなぜ必要なのかな？

写真 7

4-(1) 公德心 「公共のマナー」

公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。



教師：みんなが知っている
きまりって 何がある？

写真 8

2. 展開前段【資料の道徳的な問題を解決する】
資料「シンガポールの思い出」を読んで問題を把握する。



写真 9



写真 10

児童：日本の町はよごれている。
シンガポールの町はきれい。きまりがあるからだよ。



写真 11

児童：町をきれいにするために、
たくさんのきまりが必要なのか疑問だ。

3. 展開前段【資料の道徳的な問題を解決する】
解決策を考える。①（自己解決：長所と短所を書く）



写真 12

児童…みんなが人に迷惑を
かけないようにすればいい。



写真 13

児童：きまりがあると、みんなが守るから、
シンガポールのように町がきれいになる。

4. 展開前段【資料の道徳的な問題を解決する】
解決策を考える。②（グループ、全体で吟味する。）



写真 14



写真 15



写真 16

児童：わたしの考えた解決策は、町がきれいになるなら、
きまりがあった方がいいと思います。
その長所は、きまりがあればみんなごみをすてなくなるからで
す。短所は、きまりが多いと自由がなくなります。

児童：きまりがなくても、
一人一人がマナーの
ある行動をすればい
いのでは？

5. 展開後段【問題解決の知恵を応用する】
自分の生活を見つめ考える。



写真 17



写真 18

教師…映像を見てどう感じた？
児童…マナーのある行動だ。
次、使う人が気持ちよく入れる。

6. 終末【道徳的な問題の結論をまとめる】
学習の振り返り

児童：きまりを守ることが大切。
でも人に迷惑をかけないようにマナー
を守ることが大切だ。



写真 19

○ 児童の感想

⑤
この授業で前は、きまりをやぶってしまふときがあつた
けど、きまりの話をし、きまりをやぶらたら、人にや
わくおかけはうので、これから、スリッパやぞう
さんきれいにしなうて、次使う人に、きよくさせた

⑤ きまりも大切だけれど、マナーも大切という事
がわかりました。またマナーを守る前に常にその事
をいしきする事も大切なのだなーと感じま
した。

Ⅷ 仮説の検証

本研究では、「きまりの意義を考え遵守する」「他人に迷惑をかけない」「公共物を大事にする」などの公德心を育むことを目的とし、授業観察や道德授業の感想記述、アンケート調査等で検証する。

1 具体仮説(1)の検証

道德の時間において、問題解決型の道德学習を行うことにより、道德的实践力を育むことができるであろう。

(1) 導入【日常生活から道德的問題を提起する】

日常生活における道德的問題について事前指導で学んできているので、ねらいとする道德的価値についての思考の流れが持続したまま道德の時間の授業に入ることができた。そのことにより、児童が主体的に学習に参加し道德的価値を深く考えるきっかけにつながった。

1－(3) 自由・自律

教師：宿泊学習で自由時間がほしいと言っていたけど、「自由」って、どういうことだろう？

児童：自分の思いでなんでもできること。

教師：自分の思いなら、なんでもしてもいいの？ 児童：そうではない。

教師：では本当の「自由」とは、どういうことだろう？ 児童：…（深く考えるきっかけになる）

4－(1) 公德心

教師：学級会の時間で、「宿泊学習のきまり」について話し合いをしてきたけど、「きまり」って、なぜ必要なのかな？

児童：きまりを破ったら罰があるから。

教師：罰がなければ、きまりは破ってもいいのかな？ 児童：…（深く考えるきっかけになる）

(2) 展開前段【資料の道德的な問題を解決する】

読み物資料を読み全体交流の場で、何が問題なのか、なぜ問題なのか等の発問により、登場人物の考え方を多角的に考えることができる児童が増えた。その後、「自分だったらどうするだろう。」と主体的に解決策（自分の意見や考え）を構想する段階へ進むが、この場面で大きな課題があった。

道德の時間の目標である道德的实践力を育むには、道德的価値についての自分の意見や考えをしっかりと深めていくことが大切である。しかし、検証授業前の調査を見ると34.3%の児童が自分の意見や考えをもつことに困っているという実態であった。その理由として、「考えるのが苦手。」や「考え込んでしまって意見がまとまらない。」ということであった。（図7）

そこで、手だてとして、多様な解決策の長所と短所を比較検討することにより、よりよい自分の意見や考えを絞り込みやすくする情報マトリックスの活用を試みた。（図8）

その結果、1回目の授業後の結果は、検証授業前に比べ14%減少するという逆効果を与えてしまった。それは、「書き方が難しい。」や「書く時間がたりなかった。」といった理由であった。

その反省を生かし情報マトリックスを簡易版（図9）に改善し2回目以降の授業に活用した結果、良い方向へ児童の変容が見られるようになっていった。その理由として、「いろいろな考えの中から長所と短所を考えることで、自分の意見が決めやすくなった」等の回答が多くなった。

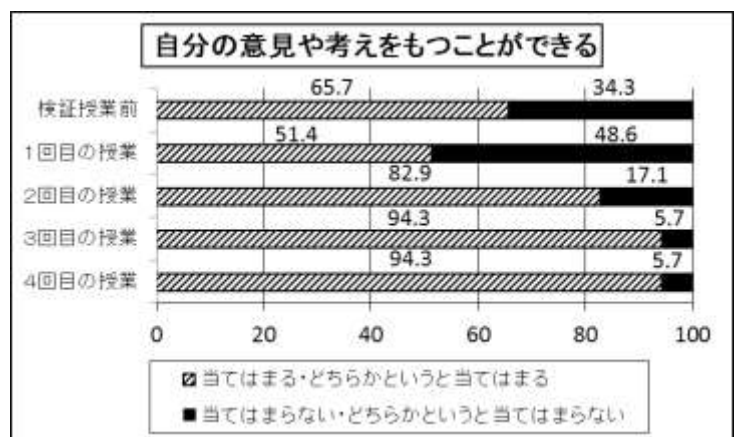


図7 児童の実態調査

○あなたの考え（解決策）			
初めの考えと理由			
最後の考えと理由			
○あなたならどうしますか。解決策を考えよう。			
	自分の考え	一郎の気持ち	すみ子の気持ち
〈A案〉			
〈B案〉			
〈C案〉			

図8 情報マトリックス初期版

わたしの意見 たくさんきまりがあるほうがいい	長所 町がきれいになる。	短所 いろんなことがぎゅうくつになる。
丹野さんの意見 きまりはなくてもいい	長所 ぎゅうくつじゃなくなる。	短所 町がまたなくなる。
あなたの解決策 ローマンが意識してゴミなどを捨てなければいい。		

図9 情報マトリックス簡易版

- (3) 展開後段【問題解決の知恵やスキルを応用する】 終末【道徳的な問題の結論をまとめる】
- 展開前段で話し合ってきた内容と児童の身近な道徳的問題を関連させ議論することにより、ねらいとする道徳的価値の理解を深める授業設定を行った。その意識の変容を学級の中から着目児を設定し、児童の感想から見取ることとした。着目児については、次の方法で2名選定した。

【着目児A】実態調査から、道徳性発達が一般的と思われる児童。
 【着目児B】実態調査から、道徳性発達に支援を必要とすると思われる児童。

① 1回目の道徳授業 2－(3)友情

主題名：「男女の協力」 資料：「ことばのおくり物」（5年生の道徳：文溪堂）

ねらい：互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。

身近な道徳的問題：学習活動（学び合い等）、係活動、音楽発表会への取り組み。

【着目児A】「私はこれまで友達の気持ちをちゃんと考えたことがなかったです。同じクラスだから、みんなで助け合うクラスにしたいです。算数の授業でもわからない人がいたら今まで通り教えてあげたいです。そうじのときは遊ぶ人もいるけど、みんなで協力できるように仲良くしていきたいです。」

【着目児B】「今日の道徳は（45分の授業が）早く感じた。自分だけじゃなくて他の人のことも考えることがいいとわかった。女（の子）ともちゃんとしようと思った。」

【考察】もともと男女の仲が良好な学級であったが、学習活動の学び合いの様子や音楽発表会に向けた練習の様子を関連させた内容から、改めて仲間のありがたさを実感し、他人の身になって考える思いやりの心の大切さを感じている。

② 2回目の道徳授業 4－(3)役割・責任

主題名：「自分の役割に向かって」 資料：「おもちゃのシンフォニー」（5年生の道徳：文溪堂）

ねらい：身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。

身近な道徳的問題：係活動、給食・清掃当番、音楽発表会への取り組み。

【着目児A】「私は今日の授業で責任の本当の意味が分かりました。（中略）沖縄市の代表になって音楽発表会にでるので、みんなと力を合わせて精いっぱい歌いたいです。（中略）みんなも責任をもってがんばってほしいです。」

【着目児B】「そうじをちゃんとしていなかった。みんなに迷惑をかけるから、ちゃんとしようと思った。」

【考察】給食・清掃当番や音楽発表会への取り組みと関連させた内容から、学級の仲間に対し思いやりの気持ちをもちながら、集団の中で役割を果たす喜びや充足感、全体の向上に役立っているという満足感を味わい、責任をもって行動しようという意欲が高まっている。

③ 3回目の道徳授業 1－(3)自由・自律

主題名：「本当の自由とは」 資料名：「うばわれた自由」（私たちの道徳：文科省）

ねらい：自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。

身近な道徳的問題：休み時間や放課後の過ごし方、お小遣いの使途、インターネット利用方法。

【着目児A】「私は今日の授業で分かったことがあります。自由は絶対に必要だけど、いいかげんに自由を使うとみんなに迷惑がかかるということです。あと、私もダメになると思います。先生の行っていた高校の校訓に自由とあるそうですが、それは責任があつての自由ということでした。私も自由時間のときは責任を忘れないようにしようと思います。」

【着目児B】「今日の授業はちょっと難しかった。自由は大切にしたい。」

【考察】着目児Bにとっては難解であったことが分かる。道徳的価値を抽象的な概念から具体的概念へ導くための支援が弱かったためだと考える。その点に課題を残した。多くの児童は、集団や社会の中では、自分のわがままの行動はみんなに迷惑をかけ秩序が保たれないことを知り、自己を統制する自律ある行動が大切であることを実感している感想が多かった。

④ 4回目の道徳授業 4-(1)公德心

主題名：「公共でのマナー」 資料名：「シンガポールの思い出」（5年生の道徳：文溪堂）

ねらい：公德心をもって法やきまりを守り自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。

身近な道徳的問題：教室のごみ箱周辺、トイレのスリッパの並べ方、雑巾干場の整理整頓。

【着目児A】「きまりがいっぱいあればいいと思ったけど、きまりはきまりで守ることが大切で、シンガポールみたいにきまりにたよらず、一人一人が迷惑をかけないように意識することがいいと思いました。トイレのスリッパをそろえて置くことは、次にトイレを使う人が気持ちいいと思います。」

【着目児B】「きまりもマナーも大切だとわかった。トイレのスリッパをならべるのはすぐできるから、みんなでできたらいい学校になると思った。」

【考察】多くの児童の感想から、他人に迷惑をかけないことや公共物を大事にすることは、社会生活を円滑に営むために大切な心構えと知り、きまりを守り、マナーを大切に考えた適切な行動をしようとする意欲が見られた。日常生活の中で、公德心のある行動が心がけようとする意識が高まっている。

2 具体仮説(2)の検証

各教科等の学習において、道徳学習との関連を図った活動を行うことにより、道徳的实践への意欲を高めることができるであろう。

公德心を育む総合単元的な道徳学習のプログラムに沿って、児童観察や感想から検証を行う。

(1) 集団の中での自己の在り方に気づく。

学級活動(2)-エ「係はなぜあるの？」(道徳との関連 4-(3)役割・責任)

学級の係活動の現状をテーマにした話し合い活動を通して、学級の一員として友達とのかかわりの中で現在の自己の在り方に気づくことができた。今後、自己をよりよい方向へ変容させていこうという意欲が見られる感想が多かった。

(2) 他者とののかかわりを大切にし、思いやりを育む。

① 体育「タグラグビー」(道徳との関連 2-(3)友情)

タグラグビーは、タグをとる、とられないように逃げる、という動きが中心で難易度はそれほど高くなく、運動の苦手な子でも楽しんで参加することができた。男女混合チームで協力し合ってゲームを展開するため、友達同士の信頼関係が培われている。

② 音楽「曲想をあじわう」(道徳との関連 2-(3)友情)

市内の音楽発表会に向け、全員が目標を一つにし、男女協力し互いのよさを認め合い高め合う姿が見られた。また、本学級のみならず学年全体で協力する姿も見られた。

(3) 責任をもって行動する意欲を育む。

① 学級活動(2)-ウ「決断のときです！」(道徳との関連 2-(4)謙虚・寛容)

相手の意見を素直に聞き、なぜそのような意見や立場をとるのかを、相手の立場に立って考える姿や自分と異なった意見や立場に対して広い心で受け止める姿が見られた。

② 文化的行事「音楽発表会」(道徳との関連 4-(3)役割・責任)

学級の一員として協力し合う大切さを知り、学級が一つにまとまることの素晴らしさや、そこから生まれる充実感を実感し、集団に積極的にかかわる態度が高まった。

(4) 社会生活を円滑に営むための大切な心構えを育む。

① 総合的な学習の時間「渡嘉敷島宿泊学習」(道徳との関連 4-(1)公德心, 1-(3)自由・自律)

渡嘉敷島宿泊学習にかかわる「ひと・もの・こと」を探究する調べ学習を通して、自己の課題解決に向けた内容と集団生活にかかわる内容を組み合わせた計画を立てることができた。

② 学級活動(1)-ア「きまりのある生活」(道徳との関連 4-(1)公德心, 1-(3)自由・自律)

宿泊学習で必要だと考えるきまりの数々を話し合うことを通して、「時を守り、場を清め、礼を正す。」という合言葉を全体で共有し実践していこうとする意欲が見られた。

③ 遠足集団宿泊的行事「渡嘉敷島宿泊学習」(道徳との関連 4-(1)公德心)

2泊3日の渡嘉敷島宿泊学習では、日常と異なる生活環境にあつて、お世話になる民宿の方や地域のみなさんとの望ましい人間関係や規律ある集団生活、公衆道徳等について、児童が自主的に公德心をもった行動を実践しようとする意欲や行為が数多く見られた。

(民宿での寝食の態度、公共施設での態度、公共物を大切に扱う態度、挨拶、言葉遣い、くつ並べ、時間内集合、船内・車内での行動等)



写真 20 くつ並べの様子(体育館の玄関)



写真 21 くつ並べの様子(民宿の玄関)

④ 学級活動(1)-ウ「宿泊学習の振り返り」(道徳との関連 4-(1)公德心)

渡嘉敷島宿泊学習を振り返り、自己の在り方を見つめる検証・省察を行った。多くの児童から公德心を大切に捉えた行動の発表があり、その理由として、「他人に迷惑をかけたくなかった。」「きまりを守りマナーのある行動をすると、自分も気持ちいい。」等であった。

しかし、一部の児童からは、「迷惑をかけることもあった。」や「思ったようにできなかった。」等の反省があったが、その発表に付け加えるように周りの友達から、「次がんばろう。」という声かけがあり、互いに認め合い支え合って自己の生き方の考えを高めている様子が見られた。



写真 22

(5) 日常生活の中で、公德心のある行動を心がけようとする意識の変容

公德心を育む総合単元的な道徳学習のプログラムによって、児童の意識がどのように変容したかを見取るため、5年1組35名の児童を対象に、検証授業前(10月)、検証授業直後(12月)、検証授業から2か月後(2月)にアンケート調査を実施した。

児童には回答方法を4択で調査を実施したが、「当てはまる」と「どちらかという当てはまる」を同分類し、「当てはまらない」と「どちらかという当てはまらない」も同分類して検証を行う。

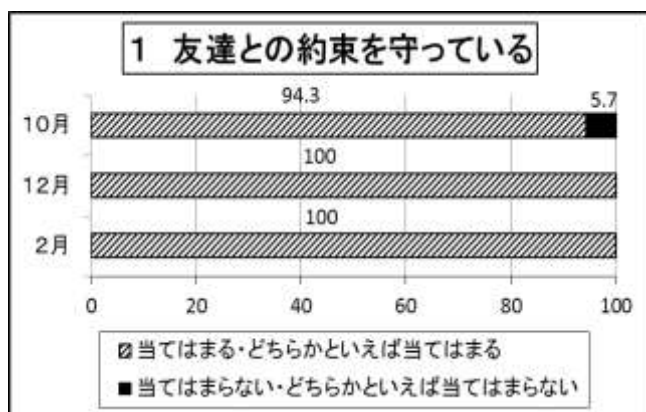


図 10

10月に当てはまると回答した児童は94.3%であった。その後12月、2月と100%を維持している。理由として、「友達是大切。」「約束を守らないと友達ではなくなる。」等がある一方、「友達ではなくても人との約束は守る。」「できない約束は初めからしない。」等もあった。このことから、友達を思いやることや約束を守ることの大切さが身に付いて習慣化してきていると考えられる。

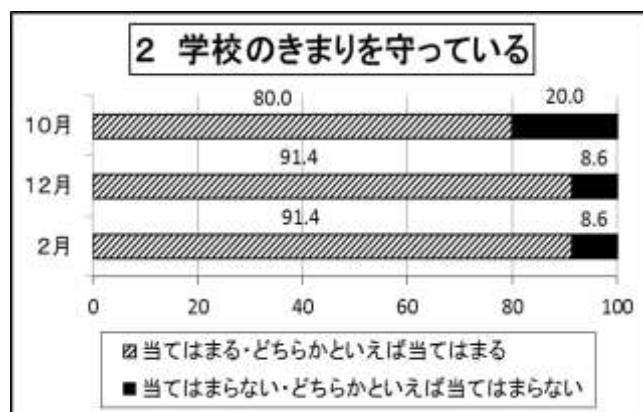


図 11

10月時点での当てはまらない理由は、「廊下を走る。」「係や当番活動を怠けている。」ということであったが、12月は約11%改善し、2か月後も維持している。当てはまる理由も、「友達に迷惑をかけるから。」という回答が多くなった。集団の中での自己の責任や公德心をもった行動を大切にしようとする意識が高まっていると考えられる。しかし、約9%の児童への支援が課題として残る。

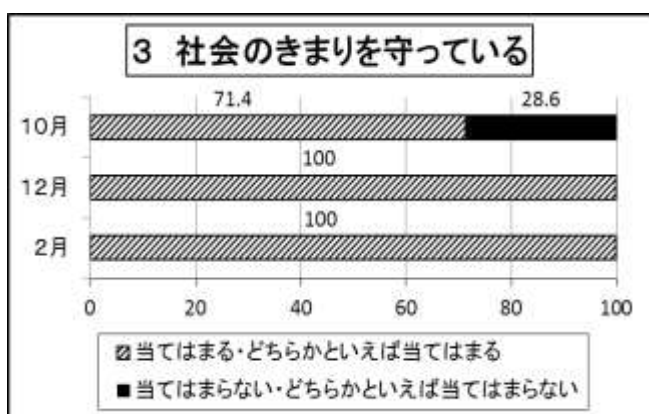


図 12

社会のきまりの例として、いじめを含めた人を傷つけることや窃盗等の法律にかかわること等を示し調査を行った。10月時点での当てはまらない理由は、「自転車に関する交通ルール」「友達との危険な遊び方」という回答であった。検証授業後の12月では100%に達し、2月の調査でも維持している。きまりを守ること、自他の生活安全を守ることでもあるという意識の高まりが見られるようになっている。

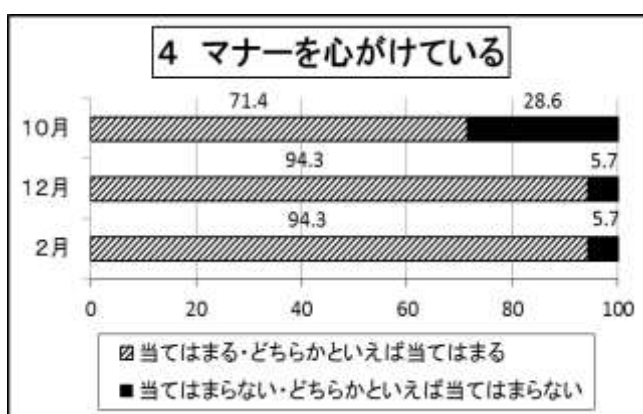


図 13

当てはまると回答した児童は、10月は71.4%であったが、12月には約23%改善し2月の時点でも維持している。その理由も、単に「マナーだから。」「なんとなく。」ということから「みんなに迷惑をかけたくない。」「みんなが気持ちよく生活できるため。」といった公德心を大切に捉えた理由が多くなっている。また、学校生活において多くの児童がマナーのある行動を実践する姿が見られることから、その意義や役割そのものについても考えを深めていると考えられる。

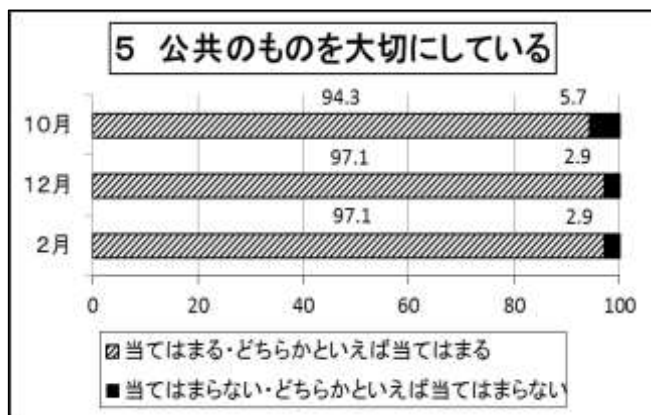


図 14

10月の時点で94.3%の児童が当てはまると回答している。理由は、「自分のものではないから。」「壊してはいけないから。」「怒られるから。」ということであったが、12月では、「みんなが使うものだから。」「次、使う人に迷惑をかけたくないから。」といった公共の精神が育っている回答が多かった。2月の調査においても維持していることから、習慣化しつつあると考えられる。



図 15

10月の時点で71.4%の児童が当てはまると回答している。その理由として、「授業で習ったから。」ということが多かった。当てはまらない児童の理由として、「あまり考えたことがない。」ということであった。しかし、12月の調査では、約23%改善し、その理由も「自分をよくしたい」「自分の生活に役立つ。」等、自己の生き方を考えようとしている回答が多くなった。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 総合単元的な道徳学習において、道徳的価値についての思考を継続させ深める学習プログラムを展開することによって、公德心を大切に考えた行動を心がけようとする意識の変容が見られた。
- (2) 問題解決型の道徳学習において、一人一人が身近な道徳的問題を解決していこうと主体的に学習に参加し、道徳的価値の理解や道徳的实践への意欲を高めることができた。
- (3) 各教科等と道徳の関連を図ることによって、道徳的实践力と道徳的实践を結び付けることができ、自己の生き方について考えを深める学習として効果的であった。
- (4) 先行研究や諸文献を通して、道徳教育への理解が深まった。

2 課題

- (1) 総合単元的な道徳学習において、各教科等に応じた道徳学習とのかかわりを十分認識しておらず、各教科等の特質を損ねた学習があった。各教科等と道徳学習とのかかわりを明確にする必要がある。
- (2) 問題解決型の道徳の時間において、道徳的価値の理解を深めさせる発問の仕方が適切ではなかったため、児童の思考の流れを遮ることがあった。ねらいの達成に向け、教師の発問と予想される児童の反応をしっかりと分析し授業展開を組み立てる必要がある。
- (3) 問題解決型の道徳の時間において、自己の考えや意見をもちやすくするための適切なワークシート作成の必要性を感じた。児童の実態やねらいとする道徳的価値に応じ考慮する必要がある。
- (4) 総合単元的な道徳学習を生徒指導や教育相談とも有機的に関連させる必要性を感じた。

〈主な参考文献・引用文献〉

- ・文部科学省 2008年 「小学校学習指導要領解説道徳編」 東洋出版
- ・押谷由夫 1995年 「総合単元的道徳学習論の提唱」 文溪堂
- ・柳沼良太 2012年 「生きる力を育む道徳授業」 慶応義塾大学出版
- ・柳沼良太 2006年 「問題解決型の道徳授業」 明治図書
- ・井口祥子 2010年 「子供の認知発達に応じた道徳判断の育て方」 日本教材文化研究財団
- ・滝充 2012年 「社会性を育てるということ」 国立教育政策研究所
- ・竹田敏彦 2000年 「豊かな心をはぐくむ総合単元的道徳学習」 広島県立教育センター